



認知症を知る～認知症の種類って?～

認知症といえば、アルツハイマー型認知症がよく知られていますが、認知症のタイプの一つで、日本人にもっとも多いタイプです。認知症にはさまざまなタイプがあり、脳が障害を受ける部分や原因がそれぞれ異なります。

また、タイプの異なる二つ以上の認知症を合併する場合があります。



Hello!



福祉

多久市地域包括支援センター
(福祉課内)

☎ 75-6033

アルツハイマー型認知症

脳細胞が変性したり脱落したりすることなどにより、記憶中枢を中心に脳に広範に障害が起こる。

- * 最近のことを忘れる
- * 緩やかに進行する
- * 嗅覚から衰え、悪臭に気づきにくい
- * 本人は病気だという意識が薄い
- * 事実と異なることを話すことがある(作話)
- * 外出して道に迷うなどがある

脳血管性認知症

脳梗塞や脳出血等が原因となり起こる。障害が起こるたびに段階的に進行する。

- * 手足のマヒなどの運動障害や言語障害が起こることがある
- * 悲しくないのに泣いたり、おかしくないのに笑ったりする(感情失禁)
- * 気分の落ち込みや意欲の低下が見られやすくなる
- * 初期には物忘れの自覚があります
- * 高血圧など動脈硬化の危険因子を持つ男性がなりやすい

前頭側頭型認知症

脳の前頭葉や側頭葉が縮むことで起こってくる病気ですが、原因が未解明な部分が多いのが現状です。

- * 興味、関心が薄れると、会話中에서도立ち去ってしまう
- * 理性をつかさどる前頭葉が侵されるので、抑制がきかなくなり、万引きや交通違反など社会ルールに違反するような行動が増えます
- * 同じパターンの行動を繰り返す
- * 50歳くらいから発病することがある

レビー小体型認知症

「レビー小体」という物質が特に脳にたまってくる病気。

- * 人物や動物、昆虫など、詳細な幻覚や妄想を見る
- * 手足の動きが鈍くなり、筋肉が硬直し、動きが減る
- * 歩行が小刻みになり、転倒しやすくなる
- * 初期には物忘れの自覚がある

早目の受診や相談で早期に対応すれば、治療で改善、または進行を緩やかにできることもあります。必ずしも、全ての症状が出てくるわけではありませんが、疑わしい症状が続く際には早めの受診や相談をするのがポイントです。

➡次回は認知症の症状についてお知らせします。

多久市地域包括支援センター(おたつしや本舗多久)は高齢者のみなさんが、いつまでも元気で安心して暮らせるように、あらゆる面から応援する総合相談機関です。